

付論 農作業における痕跡の観察

—扶桑町のイモアナ・扇状地における根茎類の保存方法の事例報告—

調査時にあちこちに確認できた方形土坑は、現在でも扶桑町で散見される根茎類を畑で保管するための土坑（以降、イモアナと称す）であったと想定されている。そして、イモアナは、現在もあちこちの畑で掘削され、利用されている。

方形土坑の掘削時の状況を把握するために、現在のイモアナについて報告する。なお、この事例報告は、扶桑町在住・今枝利彦氏所有の扶桑町大字斎藤の畑において 2004(平成 16) 年 11 月 8 日に実見したものである。

実見したイモアナは、サツマイモを収穫した後に翌年 2・3 月まで土中で保管するために掘削されたものである。大きさは、長方向は約 105cm、短方向は約 65cm で深さは約 90cm を測った。

掘削時には長方向に 2ヶ所土留めを板で行い、掘削時の排土が流入しないようにした。掘削後、保温・防水のために周囲と底にワラまたはカヤ（最近はダンボールを利用する人もいるとのこと）を敷きつめる。その後にサツマイモを並べながら、バカヌカ（小麦のモミガラ）を周りにいれる。これは他のサツマイモや水分に触れることによって腐敗することを防ぐためのものである。それを何

段に繰り返し、地上から 30cm のところまでサツマイモを埋める。そして、その上にバカヌカを地上から 5cm の所まで敷きつめて、さらに掘削土の残りで三角の山状に盛り土をする。その際に、空気の抜け穴として管を入れる。その口には石や瓦などで雨水が入らないようにしておく。この状態でサツマイモを保存しておくと、腐ることなく来年まで保存できる。ただし、バカヌカなどが腐敗するため、イモアナの再利用はできない。だから、ゴミ穴として廃棄され、翌年には少し位置をずらして同様なイモアナを掘りなおすことである。

このイモアナは、サツマイモだけではなく、サトイモの保存にも利用されることがある。大きさは、イモの量などに左右されるが、最低限作業しやすいスペースは確保するように掘削する。そして、畑の区画などに平行に掘削される。また上で紹介したイモアナの規模も、耕作者によって変わることがあるとのことである。

以上の事例報告には、今枝利彦氏の甚大なご協力を賜った。この場を借りて御礼申し上げます。



← 畑の中に掘られたイモアナ

畑の隅に収穫された根茎類を翌年まで保管するために掘削される。両脇に土留用の板がある。左手に見える梯子は、出入りに用いるためのもの。



↑ イモアナを短方向から見たもの
大きさを比較するために、今枝氏に入っ
ていただいた。



↑ イモアナの中の様子
このようにサツマイモを並べていき、バ
カヌカをかけていく。



↑ 三角状に埋め戻されたイモアナの盛土
頂部に空気穴をふさぐ石・瓦が見える。



↑ 周辺で見られたイモアナの盛土の例
盛土の上にシートやイモのツルやトタン板
などをかけておくことが多い。



← 瓦の下にある空気穴
雨水浸入を防ぐために、石・瓦などを上に置く。
極寒期はこの空気穴もふさがれる。